

場所：4号館 202 講義室

## 特別講演

### 演題

## 大学教育の質的転換と教学 IR の組織的展開

講師：京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授  
山田 剛史 先生  
(やまだ つよし)

### 【講師紹介】

神戸大学大学院総合人間科学研究科修了。学術（博士）。京都大学高等教育研究開発推進センター教務補佐員、島根大学教育開発センター専任講師・副センター長・准教授、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授・副室長を経て、2015年4月より現職。専門は、高等教育研究・開発、青年心理学。研究テーマは、大学生の学びと成長を促す教育・学習環境のデザインと評価。主著に、『大学生の主体的学びを促すカリキュラム・デザイン：アクティブ・ラーニングの組織的展開にむけて』（編著）、『学生と楽しむ大学教育：大学の学びを本物にするFDを求めて』（分担）、『大学のIR Q&A』（分担）、『生成する大学教育学』（分担）など。主な社会活動として、高等教育質保証学会評議員、大学教育学会代議員、初年次教育学会理事、文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）」専門委員、東山中学・高等学校「学習力強化プロジェクト特別委員会」特別委員など。島根大学優良教育実践表彰、大学教育学会会長特別賞受賞。



### 【講演要旨】

18歳人口の大幅な減少予測に始まり、大学進学率の上昇、高度情報化、雇用環境の変化やグローバル化など、大学卒業後の学生を待ち受ける社会の側が大きく変化している。この変化は、大学に対する予算配分の縮減や市場競争化を加速させ、第三者評価やアウトカム基盤型カリキュラムの体系化、入学者選抜改革やアクティブラーニングの推進を核とした高大接続の一体的改革など、大学教育の質的転換へとつながっている。大学を取り巻く環境が大きく変わる中、現在最も重視されている仕組みが内部質保証システムであり、その一躍を担う実践的活動としてIR（インスティテューショナル・リサーチ）の取組が推奨され、各大学で進められているところである。

本講演では、とりわけ実施が難しい教育・学生支援領域に特化した「教学IR」について取り上げる。この領域でのIRを難しくさせている原因は、大学（人）の有する組織風土・文化もさることながら、学習成果の測定・指標化の多様性・曖昧性にある。改めて、教学IRとはどのようなものなのか、誰のための何のためのものなのかといった「問い」を念頭に置きながら、この間実施・蓄積されている大学での取組や研究の成果を素材に、教学IRの組織的展開の在り方や具体的・効果的な方法などについて検討し、参加者のみなさまと共有したい。